

Yonago East Weekly



【平和という未来に希望を持ち、ロータリーの出会いを楽しみましょう】

- 創立/1968年4月24日 ● 事務所/米子市西福原1-1-55 スマイルホテル米子 Tel(0859)32-5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ● 例会場/A N A クラウンプラザホテル米子
米子市久米町53-2 Tel(0859)36-1111
- 会長/佐田山有史 ● 幹事/船田正一 ● 会報/松浪昭二

出席報告

会員数 103 名
 出席数 62 名 欠席数 35名
 出席免除会員 6名
 荒川(雄)君 杉原(弘)君 新納君
 宮本(守)君 高橋君 小谷君
 出席率 65.69 %

ビジター

メイクアップ

- 会員 13名 (10/10 作文コンテスト二次(最終)審査)
- 会員 20名 (10/11 元会長会)
- 会員 3名 (10/11 作文コンテスト表彰式打合せ)
- 会員 6名 (10/12 米子中央ロータリークラブ)

今週のお祝

主・夫人誕生日 :

12日 牧田継夫 君 20日 井上賢明 君
 25日 野坂美仁 君 26日 井上卓也 君

スマイルBOX 17,000 円 (505,000 円)

創立記念日祝 : 深井君

本人誕生日 : 多林君

主・夫人誕生日 : 内田君、牧田君

井上(賢)君、野坂君

❖ 重度の障がい者のための医療支援型グループホームを開設いたしました。… 石部裕一 君

【 会長挨拶 】



みなさん、こんにちは。
 今日はボリタの話をしたと思っております。去る10/6 境港市民交流センターで京都フィルコンサートがございました。沢山のチケットを買って頂きありがとうございました。それに際しましては本日の日本海新聞に出ておりますが、私の娘の記事の事ではなくてボリタのことを書かせて頂いております。新聞記事のインタビューを3回受けて3回ともロータリーのボリタの取り組みを書かせて頂きました。中海テレビでも生放送でロータリーがボリタに取り組んでいることを娘から話をさせて頂きました。このボリタですが急性灰白髄炎、俗に言う小児麻痺でございます。ボリタとは主に5歳未満の子どもが罹患する可能性がある身体麻痺ですが、時には死に至る事もあるということです。ウイルスは水を介したりして、人から人へと伝播していく神経系統を攻撃するという事です。10/24は世界ボリタデーですが、これはボリタワクチンを開発した米国医学者ジョナス・ソーク氏の誕生日を記念しての事です。ボリタのない世界を目指す国際ロータリーによって設立されました。ロータリーの目標は過去35年にわたりボリタの根絶活動を行ってきました。ロータリー会員はこれまでに20億ドル、今の価値に換算すると3,000億円、122か国の30億人近い子どもをボリタから守ってきました。1960年日本国内では6,500例ありましたが、1980年以降は日本では確認されておられません。世界中では1988年には35万人のボリタ患者がいました。2018年には33人、昨年は7か国5名とバキスタン2名の2か国の7名となっております。ボリタの根絶とはゼロが3年続いて根絶と言います。その為には世界中の子どもがワクチンを接種しなければなりません。今年の会長外会議でどうして人数が少ないのにお金が沢山

かかるのだろうという疑問もできました。日本では全ての子どもが生まれて7歳までの間に3回ワクチンを接種します。この数名の為に世界中の子どもたちにボリタワクチンを接種しなければならない。予算がある国はいいですが、ない国、接種できない国があるという事でロータリーが活動しております。もしこの手を緩めて根絶活動をストップした場合どうなるか？10年後には20万人もの子どもがボリタになるということです。今、最後のせめぎ合いをしているということです。今までに根絶された感染症には天然痘がありますが、ボリタについてはロータリーが寄付する金額にビルゲイツ財団が2倍上乗せするという約束のもとに進めております。毎年毎年もうちょっと、もうちょっとと言いながら来ておりますがまさに本当にもうちょっとというところで最後のせめぎ合いをしているという状況です。このボリタの話をすると私も大変つらい思いがあります。実は1957年生まれの私の弟がこの6,500例の中に入っておりました。23年前に心筋梗塞で亡くなりましたが10歳位まで歩く事ができず、手術をして足の長さを合わせてやっとこ歩けるようになり普通学校に進学したのですが、やはり心臓が悪かったですね。お医者の方が沢山いらっしゃるの私は医学的には分かりませんが、五体満足という言葉がある様に足が細いものですから血液がうまく行き渡らないというような事ではないかなと思っております。23年前に42歳で亡くなりました。我がクラブでは松浪会員と非常に仲が良くゴルフに行ったり酒を飲んだりしておりました。そういう様な事で話をするのが非常につらかったのですが、ボリタの根絶の為に皆さん一つ立ち上がって頑張ってみて下さい。最後に私にある著名の大先輩が「佐田山君、障がい者は



世界に希望を生み出そう

世界に希望を生み出そう
CREATE HOPE in the WORLD

我々健常者の犠牲の上にあるんだよ。だから彼らに思いを寄せる事はものすごい大事なんだ」という言葉を言われたのを思い出します。我々が経済活動をしながら、障がい者の方に寄り添うことは常日頃はないにしても、何かの機会に出会った時には我々は彼らの犠牲の上にあるという事を思い出して、是非とも皆さんで助け合う社会を作っていければ、何れかとして非常に良いことではないかなと思います。どうもありがとうございました。

- (1) フードロスについて
- (2) 本日例会終了後、元会長会開催
- (3) 他クラブ例会変更等
 ビジター受付 … 10/12 (木) 米子中央RC
 11/7 (火) 境港RC

<本日のプログラム>

「新世代活動委員会」

新世代活動委員会 松田成樹リーダー



新世代活動委員会の松田と申します。本日はこのような貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございます。新世代活動委員会が毎年作文コンテスト行っております。1次審査を通過した33編が昨日2次審査を行い、最優秀賞1名、優秀賞2名、入選10名、佳作20名、33名の受賞者を決める事ができました。1次審査・2次審査共にご協力頂きました皆様、大変ありがとうございました。まだ作文コンテストにご出席されていない会員様もおられるかと思っておりますので、昨年中海テレビさんで放送されました生徒による優秀賞2名、最優秀賞1名の朗読をまずお聞き頂けたらと思います。

- ・最優秀賞：笑顔がくれた私の夢 佐々木由愛さん
- ・優秀賞：夢見られる世界へ 坂口碧望さん
- ・優秀賞：そばで寄り添う文房具へ 藤本真帆さん

私自身昨年初めて参加させて頂き、生徒の顔を見、生声を聞いてやはり心に響くものがありました。子ども達の10年後20年後にはどんな未来、どんな将来が待ち受けているのか？そう思った時にちょっと調べてみました。第12回作文コンテストのテーマは「夢を形に、チャレンジこそがあなたの未来を切り拓く」という題で書いた作文です。これを井上玲子さんに代読して頂きます。

▶『変わらない夢』

米子市立尚徳中学校2年 和田由美子

「私には幼稚園の頃から変わらない夢があります。小学校や中学校に入ってからその夢への思いはより強くなりました。学校が楽しいと思えたからです。私が先生になった時も生徒にそう思ってもらいたいです。私には憧れている先生がたくさんいます。いつも笑顔で褒めてくれたりたまに怒ってくれたり、楽しい授業をしてくれたりする、そんな先生に憧れます。また相談に乗ってくれたり、病気でえらい時にすぐに気づいて声をかけてくれたりする先生の気遣いはとても嬉しいです。そんな気遣いから私達生徒の様子をいつも見ていることが分かります。両親も憧れている先生のうちの2人です。両親が学校で働いている姿は見た事がありません。しかし生徒から送られてくる年賀状の添え書きや、偶然出会った生徒の笑顔を見ると慕われているんだなと思います。家でも夜遅くまでパソコンに向かって授業の準備などを行っているところを見ると普段受けている授業は先生の私たちの事を考えて作っている事が分かります。そして一番驚いた事は、学級の楽しみ会の準備です。お父さんは買い出しに行った後、家でキーボードの練習をしていたのです。生徒がちゃんと成功して楽しめるように考えている事が分かりました。両親はいつも生徒の事を考えているからこそ生徒に慕われる

んだと思います。私はピアノと書道が得意です。幼稚園や小学校の頃から習っています。両立が難しいと思う事もありますがずっと今している習い事が将来無駄にならないと思います。だから自分の得意な事をもっと伸ばせるように、これからも習い事を続けていきます。私は憧れる先生のように生徒に勉強を教えるだけでなくいつでも生徒の様子に気づき、学校生活を楽ませてあげられる様な先生になりたいです。そうなる為にも普段から友達の様子に気づいてあげられる様な心を持ちたいと思います。そして先生になった時、得意な事を活かしていきたいです。」

和田さんの現在の状況をお聞きする事が出来ましたので、皆さん聞いてください。

▶（映像）和田由美子です。私は作文の中で将来は教師になりたいという夢を書きました。教師として働く両親の様子を垣間見るとその思いが深まったという内容も入れました。現在私は大学で国語の教員免許を取った上で教職大学院に進み、国語科の学びに関する実践研究をしています。来年度からは教員として働きますが、研究も続けていきたいと考えています。今の私の夢は、子ども達の幸福を何より大切にし、国語科の発展に寄与することができる様な教育者になる事です。幼稚園の頃から夢は大きく変わっていませんが目標はより高く、具体的になりました。両親に対する尊敬も、教育について学べば学ぶほど大きくなった様に思います。中学生の時この作文を冬休みに書き賞を頂いた事はよく覚えています。直前でインフルエンザになり表彰式には参加できませんでしたが、後日 作文を読む機会を頂けて嬉しかったです。内容はもちろんの事、作文で賞を頂いた事自体、国語教師を目指す上での大きな自信につながりました。ありがとうございました。これからも自分らしく頑張ってまいります。

この和田さんは当時の夢を叶えられた良い例ですが、実際夢というのは中学校から変わっていくものだと思います。今現在もその夢に向かって突き進んでおられる方でしたが、この作文コンクールをきっかけに自分と向き合っってしっかり今後の自分を見つめ直すという意味では、本当に良い作文コンテスト、良い事業だと改めて思っております。いよいよ11月12日、ANAクラウンプラザホテルにて作文コンテスト表彰式が行われます。どうぞ皆様もお時間がありましたら、生の声を聞き、生徒の表情を見て、一緒にその感動を胸に焼き付けましょう。今日はありがとうございました。